

災害派遣職員レポート

No.42 H23.7.18

陸前高田で活動している 中心荘 眞榮田職員の報告

陸前高田市の避難所への派遣も残りわずかになりました。

今回活動させて頂くにあたり、少しでも皆さんがスムーズに仮設住宅へ移ることが出来るようにすることを目標に活動しました。避難所の方々が頑張っているのでも何かやってあげたいという気持ちはありましたが、私達が居なくなって生活が困難になってしまっただけでは自己満足になってしまいます。

現在も高齢者のいる視聴覚室には3世帯5人の方が生活しています。出来れば中心会からこの避難所への最後の派遣になる私がいる間に皆さん仮設へ移ることが出来ればと考えていたのですが・・・。

前回の報告以降は2世帯が仮設が決まっただけで、残りの1世帯（2人）が仮設も決まらず、皆さん引っ越しはもう少し先になりそうです。

この避難所自体、今月での閉鎖が決まり、体育館での避難者も数日前に100人を切ったと報告がありました。そんな中、自分達は何故仮設が当たらないのか？仮設での生活は大丈夫だろうか？など、不安や不満は膨らんでいるようです。

私達に出来ることは話し相手になり不安を少しでも和らげあげること。在宅で夫の介護をしなければならぬ方へ負担を少しでも軽く出来るように、介護職員としてアドバイスをしたりすることでした。ベッドのセッティング方法について写真を使い解説書を作りお渡ししたり、衣服の着脱を一緒に練習したり、必要な福祉用具を揃えたりしました。

残された期間はわずかですが最後まで、自分が出来ることを精一杯がんばりたいと思います。今回の支援活動で「前向きに頑張ることの大切さ」「行動している沢山の方がいること」を、学ぶことが出来ました。私の人生で貴重な半月間になりました。

三浦副所長より

避難所の方たちが仮設へ移っても、なるべく不安なく、自立して生活が続けられるように、いろいろ考えて、行動してくれました。自分は何のために来たのかを理解してくれているからこそです。体調不良なく、無事に終えることができそうです。

今まで支援して下さった中心会職員、それを引き継いで最後の活動となった眞榮田さん、それから、派遣に行っている留守を守ってきた職員の皆さんに感謝です。

陸前高田竹駒地区で活動中の 中心荘 對木職員の報告

こんばんわ。活動報告をさせていただきます。

青空サロンには、ご高齢の方が来られることが多いですが、昨日・今日と、学校が休みのため、子供が多く来られます。子供達はとても元気で、コチラが持ってきた輪投げや竹トンボ、自分で持ってきたボールでミニ野球をやったりと、走り回ってます。

今日は、日差しが強く、気温も大分高かったので、運動している子達を日陰に招き、水分補給をこまめに促しました。あまり動かない折り紙やお絵かきといった遊びに切り替えることで、日向にあまりでることなく、テント内で新聞紙を使って工作や自分で持ってきたベイブレードなど、あまり動かない遊びをしていました。終わりが近くなると「もっと遊びたい～」と言ってくれるので、子供たちに喜んで貰えているんだと、とても嬉しく、元気を貰えます。

2度目の報告になります。今日は、社協の帰りに、陸前松原の「奇跡の松」を見て帰りました。一本松を見に行くまでの道のり、海に近いという事もあり、四階まで窓が割れて無くなり中も何も無い、又はグチャグチャになっているアパート。瓦礫の山。土台はあるが家がない開けた土地ばかりでした。あまりの光景に呆然となりました。

私の日常で見かけるものが、グチャグチャの無惨な姿になっているのを見て、自然は、こんな簡単に人の作ったものを壊してしまうと思うと、ゾッとしました。

また、こんな事になるだなんて想像せず、人生を含めて一変してしまった人たちは、自分に想像以上であると思うが、瓦礫の山や壊れたアパートを見ると、なんとはいかかわりませんが、涙が溢れそうになりそうな気持ちになりました。

携帯で撮ったので、あまり画像がよくありませんが、写真を添付します。

あまり上手い言い回しが出来ませんのですみません。

これからも皆さんに信用して貰えるくらい頑張っていきます。



理事長より

サロンにやってくる子どもたちが、同じ地域に暮らす高齢者などの要支援者に、ふつうに関心を持ってくれるようになると良いですね。子どもたちによる「お年寄り訪問」などができると面白いのでは？